

エピソード32

保護者から手紙を もらいました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。

エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の先生が、若かった頃の
経験をお聞きします。

初めて高学年を担当した時のことです。
僕は、今までの経験や、周りの先生の
アドバイスを参考にして取り組みました。

子どもたちは落ち着いて生活し、僕は
いい調子でスタートできたと思いました。





初めての高学年担任は、
うまくいったのですね。

子どもたちは自主的に活動していたので、
できるだけ、子どもたちに任せました。

学習面では、今までのノートの書き方や
発言の仕方を子どもたちに聞いて、
そのやり方を尊重して進めました。





保護者とのことで、
心配はありませんでしたか。

子どもとはうまくいっているのだから、
保護者も安心しているだろうと思いました。

懇談では「学級は、とてもうまくいって
います。子どもたちは頑張っているので、
安心してください。」と話しました。





保護者の反応はどうでしたか。

ひとりのお母さんが「うちの子が、高学年になったのにやり方が前と同じだ、と不満を言っている。」と話されました。

すると他のお母さんも「うちの子は、勉強への意欲をなくし、学校が面白くないと言っている。」と話したのです。





先生はどうしたのですか。

お母さんたちの話から、子どもたちが
たくさん不満を持っていたことがわかり、
僕はとても驚き、ショックを受けました。

次々語られるお母さんたちの言葉を、
うなだれて聞くことしかできませんでした。





その後、先生はどうしたのですか。

学年の先生に話を聞いてもらいました。
慰めてもらって、明日からまた頑張ろう
と思いましたが、とても不安でした。

すると次の日、学級の保護者から
手紙をもらったのです。





保護者の手紙には、どんなことが書いてあったのですか。

「懇談でお母さん方にいろいろ言われて、ショックだったと思います。でも先生もとても頑張っていると思います。先生が元気をなくしていると、子どもも元気がなくなるので、元気を出して頑張ってください。」と書いてありました。





先生は、保護者からの手紙を
読んで、どう感じましたか。

とてもうれしかったです。僕の頑張りを
応援してくれている保護者がいることは、
心強かったし、励みになりました。

子どもたちの気持ちに気づけず、方向を
間違えていた僕を、保護者は叱咤激励
してくれたのだと感謝しました。





なみちゃんの一言

- 経験が少ないときには、失敗することもあるかもしれませんが、でも頑張りを認めて応援してくれる先輩や保護者、子どもたちもいます。
- 子どもたちの成長のために、と目指している方向は教師も保護者も同じです。その軸からブレなければ、お互いによき協力者となれるのではないかと思います。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)